

教科目名 実務実習 (Practical Training)

専攻名・学年 : 機械・環境システム工学専攻 1 年 (教育プログラム 第 3 学年 ○科目)

単位数など : 選択 2 単位

担当教員 : 専攻副主任

授業の概要			
企業、大学、官公庁などでの就業体験を通し、専門分野での自分の知識を確かめ、さらに発展させると共に専攻科における勉学の目的を明確にする。また、社会が要求し期待する人物像を具体的に把握し、社会人・職業人としての心構えについて学ぶ。			
達成目標と評価方法		大分高専目標 (D2), JABEE 目標 (d4)	
(1) 社会人、職業人として社会から期待される人物像を具体的に把握し、その心構えができる。(報告書審査と報告会発表審査) (2) 与えられた専門分野での実務上の問題と課題を理解し、適切に対応し解決するために自分の知識を確かめ、生きた知識として確固たるものとするができる。(報告書審査) (3) 研修先の人々の指導を仰ぎ、さらに、実習に関連のある人達と協力し与えられた問題を解決することができる。(評価書審査) (4) 実習の経過や成果を報告書にまとめ、研修した成果を発表することができる。(報告書審査と報告会発表審査)			
回	授 業 項 目	内 容	理解度の自己点検
4 月	1. ガイダンス	○4月に専攻副主任より実務実習に関するガイダンスがある。	【理解の度合い】
5-8 月	2. 実習先への申し込み	○随時、企業・大学等から実習内容、期間、受け入れ専攻等が記載された書類が教育支援係に送付されてくる。専攻副主任が学生に周知するので、学生は専攻副主任を通じて申し込みを行う。申込みに必要な書類は企業ごとに異なり、履歴書、志望動機などがある。なお、学校で1名などの条件がある場合には学内で調整が行われる。	
6-8 月	3. 受け入れ可否	○随時、受け入れ可否の連絡が学校に送付されてくる。受け入れ可となった学生は、先方の指示に従って誓約書の郵送や交通チケットの手配などを行う。	
8-9 月	4. 実習	○実習期間は2週間(実働10日)以上とする。	
8-9 月	5. 実務実習証明書および実務実習報告書の提出	○実務実習後、実習を行った機関が記載した「実務実習証明書」および各自でまとめた「実務実習報告書」を専攻副主任に提出する。	
9 月	6. 報告会	○実務実習報告会で成果を発表する。	
履修上の注意		<ul style="list-style-type: none"> ・実習先の職場での諸規則を遵守し、安全に配慮して実習に臨むこと。 ・ビジネスマナーを理解し、専攻科生に相応しい行動に心掛けること。 	
教 科 書		なし	
参 考 図 書		高等専門学校生のキャリアプラン、実業之日本社	
自学上の注意		実習先の事業に即した基礎事項の復習を行うこと。	
関 連 科 目		校外実習 (M 科, C 科), 工学実験Ⅱ (M 科), 工学実験Ⅲ (M 科), PBL (C 科), 実験実習 (C 科)	
総 合 評 価		<ul style="list-style-type: none"> ・達成目標の(1)~(4)について、①企業からの評価書、②本人の報告書、③報告会の発表を総合して評価する。 ・総合評価は、下式で算出し、60点以上を合格とする。なお、報告会の発表の評価は報告会に出席した専攻科担当教員が複数名で行う。また、評価書および報告書の審査は専攻副主任が行うものとする。 $\text{総合評価} = (\text{報告会に出席した教員の評点の平均点}) \times 0.6 + (\text{評価書および報告書審査の評点}) \times 0.4$ ・各個別の評点は、100点満点で採点するものとする。 	
		【総合達成度】	
		【総合評価】 点	